



筑波大学合格体験記《推薦編①》

3年生は特編Ⅲ期の授業が終了、2月22日(月)に国公立大学の前期試験出陣式で決意を新たに
して、2月25日(木)、26日(金)の前期試験に臨みました。一方、私立大の入試はピークを過ぎ受験シ
ーズンも終盤を迎えています。3月1日(火)の卒業式で先輩方は卒業、2年生はいよいよ受験の本格的な準
備に入る時期になりました。

今回は、11月に実施された推薦入試で筑波大学に合格した6名のうち2名の先輩方の体験記を掲載
します。体験記には、なぜ筑波大学を志望したのか、受験手段として推薦入試を選んだ理由、試験内
容等、1、2年生のみなさんへのメッセージが込められています。今後の志望校・専攻分野選択の参考
にしてください。

受験から学んだこと

社会・国際学群 社会学類 《女子生徒》

合格発表の日。お世話になった先生方、応援してくれた友人たち、そしていつも見守ってく
れた家族が、私と同じくらい(あるいは私以上に)喜んでくれて、本当にうれしかったです。「こ
んなにたくさんの人の支えがあったからこそ、今の私があるのだ。」と、感謝の気持ちでいっ
ぱいでした。そして今、将来その人たちに恩返しができるような存在になるため、新たな一歩を
踏み出す準備を進めています。

＜進路決定＞

私の中で、筑波大に進学したいという思いが確かなものとなったのは高3の春でした。自分
でも遅かったとは思いますが、後悔はしていません。最終的に「これだ…！」と思える学問に
出会えたからです。きっかけは政経の授業でした。「もっと深く学びたい」という、これまでに
感じたことのなかった気持ちになったのです。筑波大には、政治学だけでなく、それに関連す
る学問を幅広く学べるという魅力があります。それを知ったときから、私の第一志望校は筑波
大学になりました。さらに私には、「社会学類に入りたいという思いはだれにも負けない」とい
う自信があったので、この思いを武器にできる推薦入試に挑戦することに決めたのです。

＜1・2学年の過ごし方＞

私は「提出物の期限を守ること」と「小テスト・定期考査で結果を出すこと」だけは、最低
限意識するようにしていました。自分でも面倒くさい性格だと思いますが、一回でも期限を過
ぎたり、点数が悪かったりすると、そのあとのやる気がなくなってしまうことが分かっていた
ので、毎回きっちり取り組むようにしていました。順位表に自分の名前があれば嬉しいし、居
残りしなくて済むし、確実に自分の学力UPにつながることで、皆さんにも是非がんばっ
てほしいと思います。そして文系の方に言っておきたいのは、世界史・日本史をきちんと暗記
しておくことの重要性です。私はこれができていなかったで、3年生になってからとても苦

劳しました。こまめに復習しておけばよかったと心から後悔しています。皆さんはこんなこ
とにならないよう気を付けてください！

＜3学年の過ごし方＞

特に変わりなく、今までと同じように過ごしていました。部活をやっている人は、本格的に
受験勉強に切り替えていくクラスメイトを見ていると焦りや不安を感じると思います。そんな
時は、迷わず先生や友人に相談してください。私自身、それによってだいぶ気が楽になりまし
た。他人と比較して焦るのではなく、頑張っている自分に自信をもってください。きっと大丈
夫です。

＜推薦入試対策＞

小論文

私の目指していた学類は、社会・法・政治・経済のどの分野から出題されるかわからないの
で、新聞やニュースをチェックして、なるべく幅広い分野に興味を持つようにしていました。
推薦入試に挑戦できるかどうかが決まるのは10月です。しかし課題として与えられる文章は、
5～6月の新聞から選ばれるとのことだったので、早くから入試を意識して社会問題を考えてい
ました。また、政経の教科担当である矢口先生に相談し、本をおすすめしていただいたりしな
がら自分の考えを深めていきました。実際に文章を書く練習を始めたのは試験日の2週間前ぐ
らいからです。テーマによって内容の充実度にばらつきがあったので焦りましたが、矢口先生
の「大丈夫！」というお言葉に勇気をもらい、何とか当日をむかえることができました。

面接対策

「社会学類は圧迫面接で、泣かされる人もいる」という話を聞いていたので、かなりの覚悟
をもって練習していました。特に重視したのは志望理由です。書類での提出が課されない分、
口頭ですべてを簡潔に伝えなくてはならないので難しかったです。また、過去の報告書を参考
にしながら、様々な質問を想定し、それに対する自分の考えが矛盾しないように気をつけてい
ました。担当の吉田先生、三中先生に何度も何度もアドバイスをしていただいたおかげで、当
日は自信をもって面接室に入ることができました。

試験当日

当日は小論文のテーマが予想外であったり、出題形式が変わっていたり、面接の途中で頭の中
が真っ白になったりしましたが、何とか乗り越えることができました(笑)。推薦入試では地道な
努力のほかに、アドリブ力も大切です。

＜後輩へのメッセージ＞

この受験を通して、日々たくさんの人が私を支えてくれているということに気づくことがで
きました。皆さんはこれから、「自分ひとりが苦しい思いをしているのではないか」と感じる
ことがあるかもしれませんが、そんなことは絶対にありません。そのことを忘れないでくださ
い。自分で進路を考えることも大切ですが、誰かに相談することで前向きになれることもあり
ます。たくさんの意見に耳を傾け、自分が納得できる選択をしてください。

皆さんが笑顔で次の一歩を踏み出すことができるよう応援しています。

最後まで読んでいただきありがとうございました。

【裏面に続く】

自分の未来を切り開くために

生命環境学群 生物学類 《男子生徒》

私はこの合格体験記を書けることを非常に楽しみにしていました。たった一回の大学受験の経験ですが、本気で勉強と向き合ったからこそ分かったことなどを、今成績が伸びずに悩んでいる人や勉強のやる気がわからない人などの少しでもお力になれば幸いです。

進路決定

筑波大学を目指そうと考え始めたのは、一年生の初めて志望校を考える時間でした。その時は、筑波大学ぐらいは目指したいなと軽く考えていました。しかし二年生夏のオープンキャンパスでパンフレットを見て、自然豊かで施設や設備が充実した2つの野外実験センターがあるということを知りました。私は将来、生物の知見を社会に応用させたいと考えていたので、大学では出来るだけ多くの生物と触れ合う時間を作りたいと思い、筑波大学を志望することに決めました。

一・二学年の勉強

志望校を決めたものの、一年次は勉強法が確立していなかったため、辛くても出来る限り先生の指示に従い学習を進めていました。また部活動もあり、思うように学習時間を確保することが出来なかったため、特に定期テストは2週間前から取り組みました。よく言われますが、受験はジグソーパズルのようなもので、多くのピースが埋まっている人が合格します。定期考査で高得点を取ることは、ピースの抜けが減るため、最も効率の良い方法だと僕は感じました。だからもし苦手教科をなくしたいなら、定期考査のテスト勉強を徹底的に行うことをお勧めします。

三学年の勉強

3年の夏は理系科目に力を入れないと間に合わないと考え、夏休み前までに文系科目の完成と理系科目の基礎の徹底に努めました。そして夏は予定通り、主に理系教科と英語に力を入れました。夏の間に、基礎が固まった理系教科から少しずつ発展問題に入れると夏休み明けがかなり楽になります。

特に気を付けたことは、本当に自分がその問題を出来るようになったかの確認です。確実な知識とならなければ、いくら時間をかけても非効率になります。そこで不安な問題は付箋を貼り、翌日に解き直しました。やることの多さに焦っていましたが、完璧に出来なければ点数には結びつかないことを何度も味わってきたので、焦る気持ちを必死に抑え、毎日1時間程度復習の時間を設けました。

推薦入試対策

推薦を考え始めたのは二年生終盤です。当時は推薦を軽い気持ちで考えていましたが、実際推薦入試を終えてみると、約一ヶ月半、準備に多くの時間を費やしたため、リスクも非常に大きかったです。ただ真剣に自分自身と向き合った非常に良い機会になりました。

（志望理由書）

志望理由書は面接で話すための軸になります。初めは筑波大学の良い点をつなげるだけでしたが、先生に自分が書いたものを見ていただいて初めて、本当に書くべきは筑波大学でなけれ

ばならない理由や自分の将来にどうつながっていくかということだと気付かされました。それにより自分が筑波大学で何を学びたいのか気付くことが出来ました。

（小論文対策）

小論文の内容はかなりテストに近いものでした。教科は英語と生物の2教科です。英語は最近の傾向として和訳問題が出るので、長文和訳などで力を付けました。また、生物は論述問題が多いので、単語だけでなく現象の流れを理解するために先生に何度も質問し、理解を深めることに努めました。

（面接）

面接は最も苦勞し、また最も時間を費やしました。暗記に頼っていたため自分の気持ちを上手に相手に伝えることに苦勞しましたが、先生に何度も練習に付き合っていたいただいたおかげで、本番では予想外な質問もありましたが、柔軟に対応することが出来ました。

後輩たちへのメッセージ

2年10月の修学旅行後に覚悟を決めて勉強を始めました。そして1ヶ月半が経ち、他の人よりも早く勉強を始めたにも関わらず成績が上がらず悩み、本当に自分の勉強法が正しいのかなど様々な壁にぶつかりました。そしてある日、自分のやり方は効率が良くないと先生に指摘された時、自然と涙が流れました。勉強で泣いたのはこの一回だけでした。私にとってこの時期が一番辛かったです。本気で何かをやろうとすれば必ず壁に直面します。それは部活でも勉強でも同じだと思います。しかし、結果が出ず苦しむのは本気で勉強に向き合っている証拠です。受験生は誰もその道を通り凄く苦しむ、我慢の時期なのです。ただ、あなたが苦しんだたった一秒、覚えた英単語の一個だけでもあなたは他の人より一歩前に前進しています。苦しんだ時間や積み重ねた努力は必ず全てあなたに還元されます。「報われない努力があってたまるか。」私は辛い時、いつもこの言葉を思い出しました。他の人よりも苦勞したその努力は必ず報われます。だから迷わず突き進んで下さい。

やる気が出ない人たちへ

様々な合格体験記を読んでやる気が出た人もいます。ただ、やる気というものは時間が経てば消えてしまいます。だからこそやる気のあるうちに、自分は今何をすべきか、自分の弱点は何か等をしっかり自己分析し、それを元に計画を立ててみて下さい。辛い一歩かもしれないですが、それは合格へのとても大きな一歩です。勉強の進め方が分からなければすぐ先生方に相談に行ってください。その一歩を先生方は喜んで歓迎し、全力で支援して下さいます。この体験記を読んで、一人でも多くの人が合格への大きな一歩を踏み出せることを心から願っております。